

リンゴの育て方

リンゴ・・・バラ科

原産地：西アジアのユーカサス地方

■年間作業カレンダー

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
生育サイクル			萌芽・開花				果実の肥大・収穫				落葉	
植えつけ	休眠						花芽分化					休眠
剪定												
肥料											収穫後	

リンゴは石器時代から食用とされており世界中で栽培されています。生食したり、ジャム等の加工にと用途が広いです。

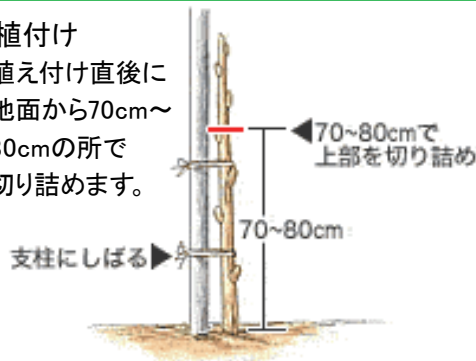
品種	成熟期	果重	糖度	特徴	受粉樹
ふじ	10月中旬～11月中旬	300～350g	14～15度	豊産性で果実汁が多く品質の良い品種で、貯蔵性が高いです。	つがる
つがる	8月下旬～9月中旬	300～350g	13～14度	果汁が多く、微酸で食味が良く豊産性です。	ふじ
世界一	9月上旬～10月上旬	450～500g	14～15度	果汁が多く芳香があり食味が良いです。	つがる
アルプス乙女	10月下旬	30g前後	13～14度	可愛らしいミニリンゴで、生食や鑑賞用に。豊産性で作りやすいです。	実家結実性が強い

■栽培条件

年平均気温が6～14度が育つ条件です。なお、生産地は10度前後です。日当たりが良く、肥沃な大地が適します。

■植付け

植え付け直後に地面から70cm～80cmの所で切り詰めます。



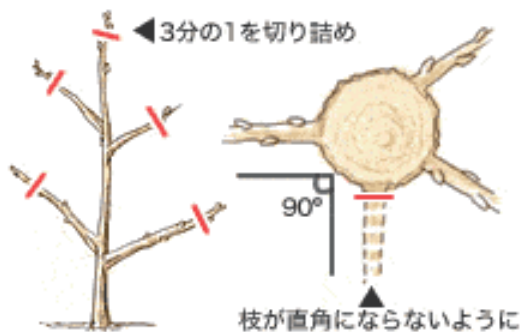
■受粉

リンゴは自分の花では受粉できませんので、結実しやすい品種の組み合わせを隣接して植える必要があります。確実に実をつけるには、人工受粉をします。

管理方法

■剪枝・剪定

2年目の冬。新しく伸びた梢の3分の1を切り詰めます。枝が直角にならないように、枝を剪定します。



■肥料

3月に配合肥料を、そして収穫後の10月下旬に追肥を施します。

■摘果

生理落果が終る開花後3週間くらいに行い、生育状態の良い1果を残し、他を摘果します。一般には、中心果が大きくて育ちが良いです。袋がけを行う場合は、摘果直後に行います。



MEMO

生理落果

強風や病害虫の被害でないのに、花や実が落ちてしまうこと

